

栗原の稲作通信

第5号 令和8年7月17日発行

宮城県栗原農業改良普及センター
宮城県米づくり推進栗原地方本部
電話番号 0228-22-9404

○今後の栽培管理のポイント

1. 幼穂形成期に入っているほ場では、品種や生育量に合わせた追肥を行いましょう。
2. 出穂前後は高温が続くと予想され、また稲が最も水を必要とする時期のため、土壌を湿润状態に保つ「飽水管理」を行いましょう。
3. 斑点米カメムシ類の本田への侵入を防ぐため、水田畦畔の草刈りは出穂10日前までに終わらせましょう【令和8年度草刈り自粛期間：7/21（火）から8/21（金）】。

1. 気象経過

○6月～7月第3半旬の気温は概ね平年並～やや高く推移しました。6月第5半旬、7月第3半旬にまとまった降雨があり、日照時間は平年並～やや多くなりました。

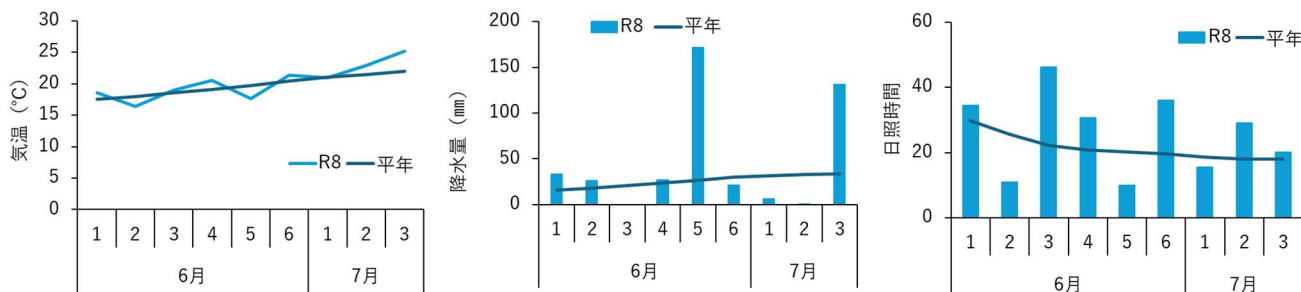


図1 6～7月の気象経過（築館アメダス）

2. 生育状況（7月10日現在）

1) 移植水稻

○古川農業試験場の5月11日移植の「ひとめぼれ」では、7月上旬も平年（過去5年平年値）より低温の傾向が続いたことから、7月10日現在の葉数は平年より0.5枚少なくなっています。草丈は平年比91%、茎数は104%、葉色は平年差+4.1ポイント、幼穂は1.3mmで平年より3日遅く7月10日に幼穂形成期に達しています。

○管内の「ひとめぼれ」は、若柳では平年と比べて草丈は短く、茎数は多く、葉数は並、葉色はやや淡くなっています。一迫では平年と比べて草丈は短く、茎数は並、葉数は1.4枚少なく、葉色は濃くなっています。

○一迫の生育調査ほ場で幼穂長1mmを超えていることから、幼穂形成期は7月10日頃で、5月中旬に田植えを行ったほ場では、出穂期は7月30日から8月4日頃になると予想されます。

表1 7月10日 生育調査結果（移植水稻）

品種	地区	田植日			草丈(cm)			茎数(本/m)			葉数(枚)			葉色(GM値)			幼穂長(mm)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	若柳	5/20	1日遅	0日早	60.8	88	89	722	141	123	10.7	-0.5	0.0	39.1	8.1	-1.1	0.2	-1.3	-1.3
ひとめぼれ	一迫	5/14	1日遅	2日遅	57.3	86	94	413	124	98	9.8	-0.1	-1.4	39.7	2.7	2.9	1.3	-7.6	-1.4
ひとめぼれ	県平均	-	-	-	58.2	83	87	507	105	99	-	-	-	39.4	3.1	0.6	-	-	-
ひとめぼれ	古試	5/11	同日	同日	61.4	86	91	662	119	104	10.2	-0.7	-0.5	41.6	2.9	4.1	1.3	-6.1	-1.6
つや姫	築館	5/25	3日早	2日遅	55.1	83	89	445	104	96	10.4	-0.9	-0.3	40.6	-1.3	-2.0	0.0	-0.1	-0.2

注1：平年値は過去3年間（令和5～7年）の平均値

注2：「ひとめぼれ 県平均」は県内各普及センター及び古川農業試験場における18地点の生育調査結果の平均

2) 乾田直播水稻

○管内の乾田直播ひとめぼれの生育状況は、昨年に比べて草丈はやや短く、茎数は多く、葉色は濃くなっています。

3. 今後の栽培管理のポイント

1) 今後の水管理

○出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。出穂後30日頃までは「飽水管理」を行い、土壌を湿った状態に保ちましょう。

ほうすいかんり ～飽水管理とは～

従来の水管理方法に比べ、限られた用水で実施可能です。間断かん水に比べ、より土壌を酸化的に保ち、根の活性が高まります。

✓実施時期：有効茎数確保後から出穂後30日頃まで

✓入水目安：水尻を閉めたまま自然落水させ、水田の足跡に水がなくなった頃、または番水のタイミングで入水

✓効果：通常の水管理は夜間に水温が下がりづらいため稲体温度も下がらず、光合成で作られた養分を呼吸で消費 ⇒**白未熟粒の発生を助長**

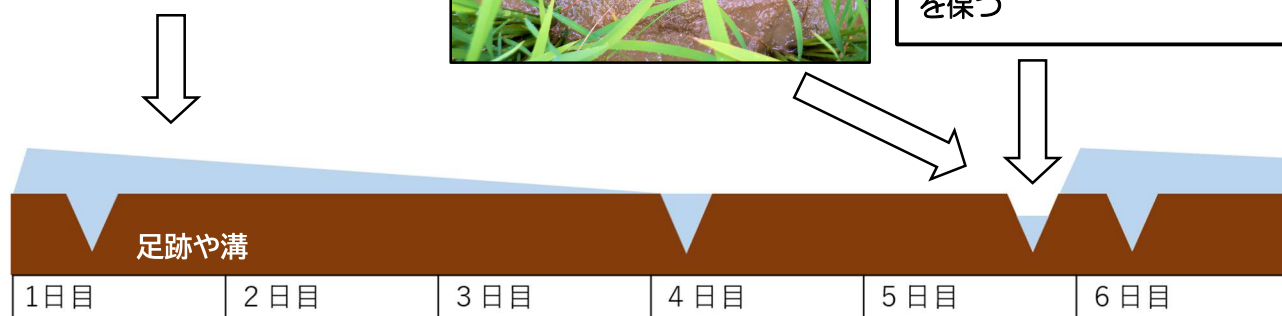
飽水管理は夜間に稲体温度が下がり、**湛水管理よりも白未熟粒の発生抑制が期待できる**

重要：入水が的確に行えるように、水田の溝切りは必ず行いましょう。

水尻を閉め、田面が浸るくらい（ひたひた）になるように入水する



自然に落水して、足跡や溝に水が無くなる頃、又は番水のタイミングで再び入水し、ほ場が湿っている状態を保つ



※日数は目安です。地域やほ場の実情にあった水管理をお願いします。

図2 ほ場における飽水管理の方法

【地域で話し合い、限りある用水を有効に活用できるように工夫しましょう】

○幼穂形成期（幼穂長1～2mm）から減数分裂期（幼穂長3～12cm）にかけて、最低気温が17℃以下の日が続く場合は深水管理を行い、幼穂を保護しましょう。

2) 品種や生育量に合わせた追肥を行いましょう

○葉色が低下した状態で登熟期間に高温に遭遇すると白未熟粒の発生が多くなるため、葉色・生育量等に留意し、穂揃期の葉色を維持するための追肥を行いましょう。

○ほ場ごとに幼穂長を確認して、生育ステージを把握しましょう（表2）。また、幼穂形成期や減数分裂期における目標生育量の範囲内から下回るほ場では追肥を行いましょう（表3）。
○特に減数分裂期の追肥は、登熟の改善に効果が高いことが知られています（表4）。

表2 幼穂形成期と減数分裂期の目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1～2mm	—	25～20日
減数分裂期	30～120mm	－10～0cm	15～10日

表3 追肥時期の目標生育量と追肥量の目安 *生育量の範囲内から下回る場合に追肥が可能

品 種	幼穂形成期（幼穂長1～2mm）			減数分裂期（幼穂長3～12cm）		
	茎数（本/㎡）	葉色	追肥量（窒素成分）	茎数（本/㎡）	葉色	追肥量（窒素成分）
ひとめぼれ	470～530	38～40	1kg/10a	450～500	35～37	1kg/10a
ササニシキ	720～760	34～36	（しない）	550～580	32～34	1～1.5kg/10a
つや姫	550～580	35～37	2kg/10a	—	—	（しない）

表4 追肥の主な効果・影響（◎：効果高い、○：効果あり、×：悪影響あり）

施用時期	穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏	玄米タンパク質増加
幼穂形成期	○	◎	○		×	
減数分裂期		○	◎	◎		
穂揃期				○		×

4. 病虫害防除

病虫害防除所 発生予報第3号（宮城県病虫害防除所 6/24 発行）

▶葉いもち……発生量「平年並」

発生時期（全般発生期）「7月第3半旬：7/11～7/15（平年並）」

○ほ場を入念に見回り、葉いもちの病斑を確認したら直ちに防除しましょう。特に、穂いもちの伝染源となる上位葉での感染には注意が必要です。

○萌えみのりや金のいぶき等、いもち病に弱い品種や、予防防除を行っていない直播栽培等では注意します。

▶紋枯病……発生量「やや多」

○高温多湿が発生に好適です。前年に紋枯病が多発したほ場では、穂ばらみ期～出穂期に防除を行うとともに、多発が予想される場合には穂揃期に茎葉散布剤を散布しましょう。

▶斑点米カメムシ類……発生量「平年並」

発生時期（第1世代発生盛期）「7月第3半旬：7/11～7/15（やや早い）」

○畦畔の草刈りや牧草の刈取りは、出穂の10日前までには終わらせましょう。出穂直前の草刈りは、斑点米カメムシを水田に追い込むことになるので避けましょう。

○本年度の栗原市の水稻出穂前後の草刈り自粛期間は、7/21（火）～8/21（金）です（栗原市水稻カメムシ被害抑制対策本部）。

○斑点米カメムシ類の防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除を徹底しましょう。

.....
◎お知らせ！

■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限等を確認して、定められた方法を厳守しましょう。最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認できます。

■農作業中の熱中症に注意しましょう！！

熱中症死亡事故の約85%が7～8月に発生しています。熱中症は正しい知識を身に付けることで、適切に予防することが可能です。

【予防のポイント】

✓高温時の作業は避けましょう。

- ・農作業中の熱中症による死亡者数を年代別に見ると 70代以上が約9割を占めています。高齢者の方は特に注意が必要となります。

✓単独作業は避けましょう。

- ・なるべく2人以上で作業し、時間を決めて声をかけあったり、異常がないか確認しあうようにしましょう。

✓20分おきに休憩&水分補給を行いましょう。

- ・涼しい日陰などで作業着を脱ぎ、体温を下げましょう。のどがかわいていなくても、20分おきに毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給しましょう。

✓熱中症対策アイテムを活用しましょう。

- ・帽子や吸湿速乾性の衣服を着用することや、空調服や送風機、ウェアラブル端末などを活用し、熱中症リスク回避をしましょう。

■大区画化等加速化支援事業(国庫補助事業)の要望量調査が実施されています！

水田の区画が小さく、作業が非効率となっている農業者等が、自ら取り組む畦畔除去や区画の拡大を国が支援します。詳細は、下記までお問い合わせ下さい。

※助成額の例：畦畔除去のみを行う場合、4万円/100m（直営、請負とも）

お問い合わせ先：

宮城県大区画化等推進協議会事務局 ☎022-263-5816（宮城県土地改良事業団体連合会内）

.....